

## 「避難訓練」後の“たし算”

2026・4・24 重枝 一郎

避難訓練が毎年行われる。本年度は来週の月曜日である。生徒支援部主任の平野先生は、新校舎での避難訓練を昨年初めて実施し、その際の先生方の振り返りを活かし、本年度バージョンに改善を図っている。ありがとう。

一般的に、学校で行われる避難訓練は、生徒においては、建物内から指定の避難場所まで、全員が静かに整列して避難することが重視される。教師においては、生徒を安全に誘導するために、避難経路の確認や声掛けの仕方など、初動対応の確認が目的になる。

生徒は、学校であったことを家で話す。授業のことや行事のこと。果たして、この避難訓練はどうだろう。親が「今日避難訓練があったの？」と子どもに聞いたとき、子どもは何と答えるだろう。

こういう訓練は、「やること」ではなく、訓練後に「変わること」が大切である。そのためには、授業を含めた他の活動同様、「変わること」につながる教師の語りが大切である。

その問いかけの例をいくつか示す。

- ① 「あなたの行動は、誰かに影響を与えていたかもしれないね」
- ② 「もし一人だったら、同じ判断をしたかな？」
- ③ 「昨日の自分だったら、どうしたと思う？」
- ④ 「選択肢が多かったら、同じ行動を選んだ？」
- ⑤ 「訓練ってなんでしていると思う？」
- ⑥ 「やりながらの自分の感情の変化を話してみて？」
- ⑦ 「他者から自分はどう見えていたと思う？」
- ⑧ 「そこに避難した理由を後から考えても納得できる？」
- ⑨ 「避難しながらあなたは何を考えていた？」
- ⑩ 「何が印象に残った？」

避難訓練後の HR で、ちょっと一言生徒に問いかけて、「振り返り」をしてみたらどうだろう。問いに正解等はない。少しでも、一人一人のメタ認知的知識が増えたらいいし、誰がどんな行動をとったのかをクラスで共有できたらいい。

「率先避難者」という言葉がある。周囲に避難を呼びかけながら、自ら率先して避難する人を指す。学校での避難訓練は、「おはし」という合言葉をよく使う。本校もそうである。これは「おさない・はしらない・しゃべらない」の頭文字をとったものである。この合言葉は、みんな知っていて、説明はいらないくらいだと思う。でも、パニックになることを必ず避けなくてはならないから、誰かが「おはし」というだけで、みんな少しでも冷静な行動をとれるようにするためである。

ただ、想像する力を持たせて、「自分は率先避難者になれるのだろうか」と、生徒に問いかけることはとても大事だと思う。自分の身は自分で守ることが、家族や他者を守ることににつながることは過去の事例で言われている。

また、この機会に、中高校舎内の火災報知器や消火栓がどこに何か所あるかとか、AED がどこに設置しているかを確認するのもいい。

何かを“たし算”する時間にしたい。

【校長研修だより32「避難訓練の先にある学び」参照】